

総務建設常任委員会視察報告

総務建設常任委員会は、去る 6 月 23 日から 25 日までの 3 日間、長野県御代田町、石川県津幡町、石川県金沢市金沢未来のまち創造館及び石川県川北町を訪問し、次のとおり視察を実施しました。

○視察日

令和 8 年 6 月 23 日（火）、24 日（水）、25 日（木）

○視察地及び視察目的

- 1 長野県御代田町
ガーデンシティ MIYOTA 軽井沢 100 について
- 2 石川県津幡町
議会の災害対応と町の災害対応について
- 3 石川県金沢市金沢未来のまち創造館
公共施設の複合化と学校跡地の活用について
- 4 石川県川北町
サンフィールド川北について

○視察者

荒井直彦委員長、中村和雄副委員長、星加代子委員、石岡実成委員、
金崎ひさ委員、笠原俊一委員、近藤昇一委員 土佐洋子議長（オブザーバー）
（随行者：行谷友良事務局長）

○視察の概要

1 長野県御代田町（6 月 23 日）

（1）町の概要

御代田町は、浅間山の南麓に広がる自然豊かな町で、冷涼な気候と豊かな自然環境を生かした農業が盛んである。近年は軽井沢町に隣接していることや別荘地としての開発も進み、都心からの移住者も増えている。

◎行政面積 59.78 km²

◎人口 16,364 人（令和 8 年 5 月 31 日現在）

◎世帯数 7,905 世帯（令和 8 年 5 月 31 日現在）

◎令和 8 年度当初予算規模

一般会計 98 億 6,353 万円

特別会計(6 会計)33 億 33 万円

企業会計(2会計)31 億 7,675 万円

◎議員定数：14 人

(2) 視察の概要

旧役場庁舎跡地と隣接する民有地と併せ、100 を超える区画規模で宅地開発を行い、公共スペースや価値向上策を講じることで地域全体の価値を高め、まちを豊かにすることを目指し、「100 年先を見据えたまちづくり」とした公民連携のプロジェクトである。

既存住民と新住民の交流促進のための具体例、行政と民間事業者、住民の役割分担、開発反対者の対応、美しい町並みを維持するための建築協定や景観ガイドラインについて、このプロジェクトを請け負う株式会社大建取締役社長より説明を受け、質疑応答を行った。さらに、現在造成中の現地の視察も併せて実施した。



視察の様子

2 石川県津幡町（6 月 24 日）

(1) 町の概要

津幡町は、加賀藩の時代から宿場町として栄え、現在も交通の要衝となっている。主要な産業は、農業で特に「つばたの里芋」はブランド品として知られている。近年では、郊外型商業施設の進出や住宅地の開発が進み、金沢市のベッドタウンとしての機能も担っている。

また、令和 6 年 1 月 1 日発生の能登半島地震、令和 5 年 7 月 12 日からの豪雨により大きな被害を受けた経験を持つ。

◎行政面積 110.59 km²

◎人口：37,420 人（令和 8 年 5 月 31 日現在）

◎世帯：15,526 世帯（令和 8 年 5 月 31 日現在）

◎令和 8 年度当初予算規模

一般会計 188 億 5,500 万円

特別会計(5 会計)71 億 7,906 万円

事業会計 (3 会計) 71 億 8,147 万円

◎議員定数：16 人

(2) 視察の概要

令和 6 年 1 月 1 日発生の能登半島地震と令和 5 年 7 月 12 日発生の豪雨により大きな被害を経験していることから、議会としての災害対応及び町としての災害対応について、改善点や反省点などを中心に津幡町総務課及び議会事務局より説明を受け質疑応答を行った。



町役場での視察の様子



議場にて



説明資料（津幡町議会資料より）

3 金沢未来のまち創造館（6月24日）

（1）概要

金沢市野町にあった野町小学校の校舎を利用した、スタートアップ支援や子供の創造力育成、食・工芸の付加価値創出などを目的とした複合交流施設。開館は令和3年8月で設置主体は金沢市である。

（2）視察の概要

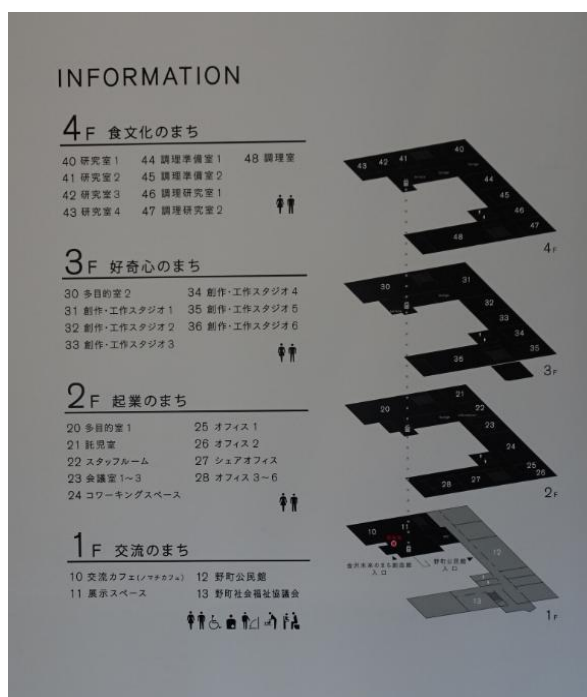
公共施設の複合化と学校跡地の活用について、地域住民との合意形成、利用状況、運営費など、金沢未来のまち創造館の担当で金沢市経済局産業政策課職員より説明を受け、質疑応答を行った。また、各施設の視察も併せて実施した。



作業場となった元教室で説明を受ける



未来のまち創造館前



未来のまち創造館案内図

4 石川県川北町（6月25日）

（1）町の概要

川北町は、石川県南部に位置し、日本三大急流の一つである手取川の扇状地が広がる平坦な町である。肥沃な大地と豊かな水源に恵まれていることから、稲作を中心とした農業が盛んである。近年は、子育て支援に力を入れており、若い世代の移住促進にも取り組んでいる。

また、毎年夏に開催される手取川での花火大会は、石川県内でも有数の規模を誇っている。

◎行政面積 14.64 km²

◎人口：6,054人（令和8年5月31日現在）

◎世帯：2,106世帯（令和8年5月31日現在）

◎令和8年度当初予算規模

一般会計 49億3,700万円

特別会計（4会計）6億7,150万円

事業会計（3会計）4億8,985万円

◎議員定数：10人

（2）視察の概要

災害時には緊急避難場所として、仮設住宅建設用地や広域避難場所として利用する多目的グラウンド「サンフィールド川北」について、平時から行っている備えや維持管理、利用状況等について川北町教育委員会及び総務課職員より説明を受け、質疑応答を行った。また、グラウンドの視察も併せて実施した。



町役場での視察の様子



広大な敷地のサンフィールド川北



サンフィールド川北の全景（川北町教育委員会資料より）

◇委員所感

<荒井委員長>

◎長野県御代田町

「ガーデンシティ MIYOTA 軽井沢 100」の「100 年先を見据えたまちづくり」のプロジェクトとは

＊行政・民間事業者・住民がそれぞれの役割を担いながら、対話を進めている
公民連携型（PPP）のまちづくり

＊御代田町が移住先として選ばれた最大の要因は、軽井沢周辺エリアの魅力を享受していて、新幹線駅の軽井沢に近いこと

おもな特色

＊令和 9 年 7 月から販売予定

＊100 区画

＊坪単価や細かな金額が発表されていないので少し不安が残ると思った。

＊令和 6 年度 人口増加町 ランキング全国 4 位

詳細は、添付資料参照（事前に質問状提出 → 回答を頂いた。）

◎石川県津幡町

議会として能登半島地震の経験での体験談・今後の課題や役割について当日は、スライドで、令和 5 年 7 月豪雨（7 月 12 日）と令和 6 年能登半島地震（令和 6 年 1 月 1 日）の説明を受けました。（20 ページ）

＊トイレカーを購入（トヨタのハイエースで簡易トイレ設置可能、普段は公

用車として使用。(新聞の切り抜きあり)

*葉山町では 議長が災害対策本部のメンバーになっていないので改善する必要があるのではと指摘を受けた。

詳細は、添付資料参照 (事前に質問状提出 → 回答を頂いた。)

◎石川県金沢市「金沢未来のまち創造館」

廃校の再利用の実例。

2014年に野町小学校が統合のため廃校になり、その跡地と建物のあり方をしばらくの間、地域住民と検討を重ね、2021年8月に新しく活用された実例。

金沢未来のまち創造館は、「スタートアップ・新ビジネス創出」「子供の独創力育成」「食の価値創造」の3の柱に事業活動を展開し、金沢市における新たな産業の創出とみらいで活躍する人材の輩出を図る施設。

建物自体は、もともと耐震化が済んでいたため、すべての教室・廊下・トイレ・階段等は改修し、増築した分は4階まで行けるエレベーター、正面玄関の入口付近だけ。

改修・増築総費用は約10億円、その内(社会資本整備交付金3億5千万)を活用している。登録している子供の数は約300名。対象は、小学校4年生から高校3年生まで。

*運営は 金沢市が管理運営を行い、3つの事業活動は、公募型プロポーサルにより、選定された一般社団法人CLLが担い、官民連携の価値創造拠点施設。

◎石川県川北町

*人口が6千人の町である。

*町には水がきれいで豊富な特色があり、企業誘致に成功している。

多目的運動公園は、災害時には広域避難場所として活用を想定して防災機能を兼ね備えた施設。

*防衛省の民生安定施設整備事業 補助率(29.73%)

*行政側の施設管理は 教育委員会の所管であった

*国土交通省の補助金はなぜ利用しなかったのかは、補助率がいいが減額される可能性があるので、確定させることを優先した。

詳細は、添付資料参照 (事前に質問状提出 → 回答を頂いた。)

<中村副委員長>

◎長野県御代田町

令和元年、御代田町庁舎が移転した。その跡地利用について令和 5 年にプロポーザル方式で募集が行われ、地元長野県の(株)大建が落札した開発事業。開発面積は約 5 万 m²、完成予定が令和 9 年 3 月の現在造成工事中の事業で、事業者の回答書によれば、行政・民間事業者・住民がそれぞれの役割を担いながら対話を重ねて進めている公民連携型(PPP)の街づくりである。

このような規模の開発計画などあり得ない本町にとって、参考になったのは事業のハード面ではなく、ソフト面であった。

ひとつは、この(株)大建が地元事業者であること。そしてさらに、プロポーザルに参加するにあたって、長野県内の中小企業を中心に民間のネットワークを生かしたプロジェクトチームを編成して企画を煮詰めたこと。

もう一つは、完成したら終わりの宅地開発事業ではなく「定住と満足向上につながる次世代型コミュニティづくり」をテーマに、管理組合や自治会といった組織面、集会所・緑地帯等の施設面、ごみ回収や防犯等の日常生活面等、100 年先も豊かで幸せな御代田であるための仕掛けや工夫を凝らしたまちづくりをめざすものとなっていることである。

単なる分譲地でなく、地域を知り地域とともに生きるほかない、地元企業だからこそできる挑戦であるとの事業者の考え方、事業方針に注目した。

人口減少が進み事業活動が縮小する中、開発事業にとどまらず社会や生活を支える企業や職人の不足で、私たちの日常生活や事業・業務がままならなくなる時代がすぐそこまで迫っている。地元事業者を育て共に生きていく地域をつくるのが、これからの持続可能なまちづくりの原点であると改めて確認した。

◎石川県津幡町

令和 5 年 7 月の豪雨、令和 6 年 1 月の能登半島地震と近年立て続けに甚大な被害を被った町として体験したこと、感じたことを聴くことができた。注目した点は次のとおり。

- ・災害時、議会の動きは見えにくい。執行部とは、平時からの対応が大事である。
- ・議長が町の災害対策本部に出席し、情報の共有を図った。
- ・防災情報の発信は、ツール毎にやった。世代で異なる。どの手段でどの世代に発信できるか考えること。高齢者への情報提供は、紙か電話しかない。一斉情報発信のシステムの検討が必要では。

- ・一人暮らし高齢者の避難先について、自宅か避難所か判断が難しかった。
- ・救援物資がいつ届くか分からず、対応に苦慮した。
- ・職員に地域防災計画が浸透していなかった。職員の初動対応を向上させること。
- ・自助、共助、公助の順番であることの徹底が必要。

災害時に議員としてやるべきこと、議員だからこそできることは何かとの私の問に対する答は、一町民として考え行動することであった。

◎石川県金沢市「金沢未来のまち創造館」

平成 26 年に廃校になった小学校(築 50 年)の利活用で開設した施設。

整備に要した費用は 10 億円。内訳は国の交付金 5 億円、市債 3.5 億円、一般財源 1.5 億円。市の直営で、職員 2 人、会計年度任用職員 3 人で運営。維持管理費 3,600 万円。金沢市では、廃校後の建物を公民館、放課後児童クラブ、音楽スタジアムなどとして利活用しているということである。

当該施設は「スタートアップ・新ビジネス創出」、「子供の独創力育成」、「食の価値創造」を 3 つの柱に、金沢市における新たな産業の創出と未来で活躍する人材の輩出を図ろうとする施設で、公募型プロポーザルで選定された一般社団法人 CLL が運営を担う官民連携型の施設である。視察では、自らの興味や思いで作業する子どもたちや、コワーキングスペースでパソコンに向かう 7 ～ 8 名の若者達の姿を見ることができた。

ホームページに載っている以下の一文を読みながら、葉山らしさ、葉山の歴史・文化・伝統・誇りをもって語れる魅力は何か、改めて考える必要を感じた。

未来はどこからやってくるのでしょうか？

最先端の技術や研究も必要です。

でも、そこに金沢らしさがなければ、金沢の未来、とはいえない。

金沢の歴史や文化、伝統を見つめ、誇りをもって語れる魅力があるからこそ、思い描きたい未来も生まれてくる。そう思うのです。

金沢の未来をみんなで考えたくて、新しい拠点をつくりました。

金沢未来のまち創造館。ここには、IoT や AI など最先端分野をはじめ、金沢市が誇る工芸やものづくり、食やアートなどさまざまな文化、未来を担う子どもた

ちのワークショップがひとつの屋根の下に集っています。

つくりたいのは、さまざまな枠を越え、多様な価値観をつなぐことで、新たな価値へとつながる可能性です。

未来は人からやってくる。あなたも金沢の未来の一人です。

持続可能なまちづくりのために何が必要か、「葉山として何を武器にどんな施設ができるか」を考えることの大切さに気づかせてくれた視察となった。小中一貫教育施設の整備と、統合で空いた学校の施設と土地の利活用を併せ検討することを執行部に求めたい。因みに、この施設は「エッ、こんな場所に？」と思わせる、中心市街地から離れた住宅街の一角にあった。

◎石川県川北町

令和6年3月に完成した面積約2.8haの多目的運動公園。整備費11億9千万円。

多目的運動広場、芝生広場、100m走路、一周560mのジョギング・ウォーキングコース、複合遊具(インクルーシブ遊具)、ナイター照明4基等を備える施設で、敷地内の管理棟には防災倉庫があり、防災用資機材と発電装置を備えている。

災害時には、緊急避難場所として、仮設住宅建設用地や広域避難所になり、広場にはかまどベンチが設置されている。施設管理費は年間1,279万円、令和7年度の利用者は19,761人。町民は無料で利用できる。

多目的運動広場はサッカーの利用が多く、天然芝のため痛みが激しく張り替えが課題となっている。張り替えに4千万円掛かるということで、担当者は苦慮していた。

川北町は人口6,054人、行政面積14.64㎢、一般会計予算49億3,700万円の小規模の町であるが、サンフィールド川北に隣接して町庁舎のほか、サンアリーナ川北(総合体育館)、川北町ふれあい健康センター(1階が温泉施設、2階が図書館)がある。さらに公共料金の低廉化を図っているという。

なぜ、こんなことがやれているのか？今回の視察では明らかにできなかったが、他にも学ぶべきことがありそうな興味深い町である。

<星委員>

◎長野県御代田町

御代田町では、人口増加を目標とするのではなく、「どのような暮らしを実現するか」を軸にしたまちづくりを進めていたことが印象的であった。軽井沢に近い立地を生かしながら、住宅地と公園を一体的に整備し、旧工場跡地を活用した約 100 区画の住宅開発や 7 つの公園整備を進めている。無電柱化や街路樹の管理、公園の指定管理などにより、良好な景観を維持し、不動産価値の向上にもつなげていた。また、住宅購入補助や企業誘致を組み合わせ、30～40 代の子育て世代を中心に移住者を増やしている点も特徴的である。行政だけでなく民間事業者と連携し、長期的な視点でまちのブランド価値を高める姿勢は大いに参考になった。

◎石川県津幡町

津幡町では、近年の豪雨災害や能登半島地震での経験を踏まえ、「平時の備え」の重要性を強く認識した防災体制が構築されていた。特に、防災動画や SNS、町職員の到着を待たずに迅速に指定避難所を開設できるデジタルキーボックスを活用など、葉山でも導入すべきものがあつた。情報発信、要配慮者支援や避難所運営の改善、議会 BCP の策定など、行政と議会が一体となった危機管理体制が特徴であった。また、災害時には職員や議員が迅速に安否確認を行い、LINE 等を活用して情報共有する仕組みも整備されていた。さらに、災害対応を通じて「自助・共助」の重要性を改めて認識し、平時から地域住民との信頼関係づくりを重視している点が印象に残った。

◎石川県金沢市「金沢未来のまち創造館」

金沢未来のまち創造館は、旧野町小学校をリノベーションした施設で、「スタートアップ・新ビジネス創出」「子どもの独創力育成」「食の価値創造」の 3 つを柱に、多世代が学び、交流し、新たな価値を生み出す拠点として整備されていた。校舎の黒板や棚など学校の面影を残しながら、コワーキングスペースや研究室、調理室、多目的室などを配置し、地域住民、子ども、起業家、研究者が自然に交わる空間となっている。また、単に場所を貸し出すだけではなく、成長支援プログラムやコミュニティ形成を重視した運営が行われており、官民連携による価値創造の仕組みが構築されていた。

葉山町でも、将来的な公共施設の再編や学校施設の利活用を検討する際には、施設の有効活用だけでなく、地域課題の解決や人材育成、起業支援、世代間交

流など複数の機能を持たせることで、地域に新たな価値を生み出す拠点づくりが可能であると感じた。公共施設を「管理する施設」から「未来を創る施設」へ転換するという視点は、大変参考になった。

◎石川県川北町

サンフィールド川北は、スポーツ・健康・交流を一体的に推進する複合施設として整備されており、多目的グラウンドや大型遊具、天然芝、ウォーキングコースなどを備え、子どもから高齢者まで幅広い世代が利用できる施設となっていた。夜間照明や防球フェンスなど利用者ニーズに応じた整備など、多様な利用形態を認めている点も特徴である。また、防災面では仮設住宅用地やマンホールトイレの整備など、防災拠点としての機能も備えていた。大規模な花火祭りのほか、子育て支援や福祉の充実を背景に高い定住率を維持していることは見習う点がある。また、企業誘致が進む中で、公共施設を単なる行政サービスではなく、町の魅力や定住促進につながる資産として位置付けていることが印象的であった。葉山町でも、公園やスポーツ施設を防災機能と併せて整備し、多世代が日常的に利用することで地域コミュニティを育み、災害時にも活用できる公共空間づくりを進めることが重要であると感じた。

<石岡委員>

◎長野県御代田町

〔事業概要〕

御代田町が掲げる「ガーデンシティ MIYOTA 軽井沢 100」は、単なる景観美化や都市緑化の枠に収まるものではなく「100 年先も、豊かで幸せな御代田であるために」という極めて強い覚悟とビジョンのもとで、以下にまとめたような本質的なアプローチが展開されています。

- ① 地域の最大の財産である自然環境を守り、生かしながら、次の世代へと価値を紡いでいくための長期的ランドデザイン。
- ② 豊かな緑や空間がコミュニティを育み、住民一人ひとりが「この街で暮らす豊かさと幸せ」を実感できる施策の展開。
- ③ 今を生きる市民の利便性だけでなく、未来の子供たちが誇れる持続可能な地域経済と環境の土台づくり。
- ④ 短面的な成果を追うのではなく、100 年後の未来から逆算して「今、行政がなすべき責任」を明確にした、極めて先進的かつ包括的なまちづくり。

■視察による所感

今回のレクチャーを通じ、私が最も強く心を揺さぶられたのは、その根底にある「未来に対する圧倒的な責任感」でした。

「100 年先も、豊かで幸せであるために」という言葉は、決してキレイ事のキャッチコピーではなく、そこには、予測困難な未来に対して、行政と住民が一体となって「豊かな環境とコミュニティを絶対に守り抜く」という、並々ならぬ熱い想いと具体的戦略が宿っていました。

自然の豊かさを単に維持するだけでなく、それを住民の絆や誇りへと昇華させる御代田町の姿勢は、これからの地方創生における一つの正攻法の姿であると感じています。ビジョンのスケールの大きさに圧倒されつつ、未来の住民に対する深い愛情に満ちた事業のあり方に深い感銘を受けました。

今回の視察で得た学びは、豊かな自然と独自のコミュニティを持つ葉山町の未来を考える上でも極めて重要な示唆に富んでいると思います。

目先の予算や短期的な課題に終始するのではなく、私達もまた「100 年先の子供たちに、どんな町を引き継ぐのか」という大きな大義を胸に、本質的なまちづくりを進めなければならないと感じました。

◎石川県津幡町

〔視察内容〕

石川県津幡町は、令和 5 年 7 月に記録的な豪雨によって甚大な浸水被害を受けました。そして、そこからの復旧の最中、わずか半年足らずの間に今度は令和 6 年能登半島地震に遭遇するという、短い期間に 2 つの異なる大規模災害に見舞われた自治体です。

このように相次ぐ危機の中で、町はどのように危機管理体制を立ち上げ、現場の対応を最適化させたのか。そのリアルな経験と教訓を直接お聞きし、我が町の防災計画や有事における行政と住民の連携のあり方に活かすことを目的に視察を行いました。

■視察での学び

津幡町の担当者の方から、当時の気象や地震のデータ、被害の状況、そしてタイムラインに沿った初期対応の検証結果について、スライドを見ながら詳しくお話を伺いました。

豪雨災害からの復旧プロセスの途中で地震が発生したため、「職員の心身の疲弊」「資機材の確保」「避難所の二重運用」など、通常の単一災害では想定しき

れない、連続災害特有の厳しい局面に直面されたそうです。

その中で、豪雨の教訓が直後の地震対応に生かされた部分（迅速な本部の立ち上げや職員の役割分担など）がある一方で、形式的なマニュアルに頼るだけでなく、現場ごとの即興的で柔軟な判断が多くの命を救う鍵になったというお話が非常に印象的でした。

また、避難生活が長引く中でのプライバシーの確保や、福祉避難所の早期開設、災害弱者へのアプローチなど、生活再建に向けた具体的な課題と実践された対策についても共有させていただきました。

更に、議員の皆さんがそれぞれの活動拠点において実際に行動した事例や苦勞した点、町内に 10 箇所ある消防団の中で、崩壊してしまった分団詰所もあるという話も印象に残りましたが、全町民に 1 万円相当の防災グッズを配布する予算（総額 4 億円）を組んだということが一番の衝撃でした。（ほぼ補助金）

■視察による所感

津幡町の事例は、「想定外の規模で災害は連続して起こり得る」という厳しい現実を私たちに教えてくれています。マニュアルをきれいに現場になぞるだけでなく、職員や地域住民の皆さんが「その場で最善の判断をして動ける柔軟性」を平時から育んでおくことが何より重要だと痛感しました。

また、議会としても、BCP があるから...という部分に決しておごらず、常に非常時を想定した訓練の継続、マニュアルの改編、インフラの準備などもしておく必要があると感じました。

◎石川県金沢市「金沢未来のまち創造館」

〔視察内容〕

少子高齢化等に伴う学校の統廃合は、多くの自治体が直面している共通の課題です。閉校となった大切な校舎を地域の資産としていかに有効活用していくかが今、強く問われています。

そんな中、金沢市が展開する「金沢未来のまち創造館」は、単なる地域の集会所の枠を超えて、スタートアップ（起業）の創出や、子どもたちの創造性を育む拠点として大きな成果を上げています。今回はその先進的な取り組み、特に子どもたちのための創造活動スペース「VIVISTOP（ヴィヴィストップ）」の運営実態を視察したいという、私からの要望を受け入れてもらえた視察先になります。

■視察での学び

旧野町小学校の校舎をリノベーションした館内を見学し、素晴らしいアイデアの数々に触れることができました。

施設内には、起業家育成、食の価値創造、そして子どもの創造性育成という、異なるテーマのフロアが同居しています。これらがバラバラではなく、互いに刺激し合い、新しいアイデアが生まれる仕掛けが施されていました。

特に先進的な「VIVISTOP KANAZAWA」は衝撃でした。それは、3Dプリンターやレーザーカッター、デジタルミシンといった最新のデジタル機材から、沢山の工具や素材がズラリと並んだ空間です。その最大の特徴は「大人がカリキュラムを用意しない」という点です。子どもたちが自分の「やってみたい！」を起点に、自分で考え、試行錯誤しながら形にしていく、まさに探究学習の理想の形が徹底されていました。

更に、子どもに伴走する「クルー」の存在も大きいのが分かりました。ここでは大人は「先生」として教えるのではなく、子どもの自由な発想に伴走し、技術的なサポートやヒントと一緒に考える「クルー」として接していました。この関係性こそが、子どもたちの主体性を引き出す核になっています。

■視察による所感

地域の歴史が詰まった懐かしい廃校が、最先端のテクノロジーと自由な教育思想によって、「未来のまちを創る人を育てる場所」へと見事に生まれ変わっている姿に大きな衝撃と感動を覚えました。特に VIVISTOP の、子どもの可能性を 100%信じて環境を整える姿勢は、これからの教育改革において絶対に欠かせない視点です。

誰もが広く浅く使える公民館的な活用だけでなく、次世代教育やイノベーションに特化した「尖った魅力のある拠点」として廃校を活かす選択肢は、これからの葉山町においても、十分検討に値する部分だと思います。

一方で、こうした先進的な取り組みですが、財政的な面からみると、先行投資をしている部分が大きく、当町に置き換えた際は、非現実的な数字にも見えてましたが、そこは、知恵を絞り合って、どうしたら出来る？という発想で、考え方の軸にすべきと強く思います。

◎石川県川北町

〔視察内容〕

広大な敷地に整備された多目的運動公園は、住民の健康増進やコミュニティの場として機能しているだけでなく、町外からのスポーツ人口や合宿の誘致な

ど、「関係人口・交流人口の創出」に寄与するソフト事業と連動していました。単なる「箱物」の維持管理にとどまらず、地域の活力を生み出す装置として機能している点が素晴らしいと思いました。

川北町の強みの源泉は、ベッドタウンとしての立地優位性だけでなく、町内への有力な工業団地誘致の成功にあります。これにより安定した税収（固定資産税・法人町民税等）と雇用を確保し、生活環境と産業発展を両立させる緻密なゾーニング（土地利用計画）が機能しています。

そこで、確保した財源を、周辺自治体を凌駕する保育料や上下水道料金の低廉化、手厚い子育て支援へと「選択と集中」させていることも、特筆する部分です。この明確な行政姿勢が若いファミリー層の定着を呼び込み、県内トップクラスの年少人口比率（高い出生率）という好循環を生み出している実態を確認できたことも良い勉強になりました。

■視察による所感

今回の視察を通じて痛感したのは、川北町の成功は決して地理的条件や偶然によるものではなく、「行政の明確な意志と、長期的なグランドデザインに基づく『選択と集中』の賜物である」という部分です。

多くの自治体が「あれもこれも」と全方位の施策に追われる中、同町は「産業誘致で稼ぎ、子育てと生活基盤に極振りして住民に返す」というブレないポリシーを貫いていて、身の丈に合ったコンパクトな町域を活かし、住民が真に求めているコスト（生活費・子育て費の負担軽減）にピンポイントで予算を投入する政治的決断力は、規模の大小を問わず、全ての地方自治体が学ぶべき本質ではないかと感じています。

「サンフィールド川北」のハード・ソフト両面での素晴らしい活用事例も含め、持続可能な地域社会をつくるためには、一過性のイベントや施設建設ではなく、住民が「ここに住み続けたい、ここで子どもを育てたい」と思える確固たる安心感を、行政と議会が一体となってデザインし続ける覚悟が必要であると強く認識させられました。

今回の視察を通じて、限られた財源の中で、葉山町が「何を強みとし、どこに資源を集中させるべきか」という大局的な視点を持ち、真に住民へ還元される施策の優先順位についてしっかりと見定めて提言していく必要性を感じました。

＜金崎委員＞

◎長野県御代田町

新庁舎移転に伴う旧庁舎跡地 1.2 万 m²の売却に際し、100 年先を見据えた開発にするためのプロポーザルで事業者選定を行ったとのこと。その事業者が周りの土地を購入し「ガーデンシティ MIYOTA 軽井沢 100」として 100 区画の住宅開発を手がけています。その現場を含めて、事業者からも説明を聞くことができました。素晴らしい構想で、中央に広場のある広い道路そして、敷地内に 7 つの公園は全て、完成した暁には町へ寄贈し、植栽等の管理は未来に渡って事業者が行うとのこと。100 区画の入居者選定は御代田町を愛し、この町に貢献したいという想いを持った人々を中心に、コミュニティーを大事にすることが条件だとのこと。事業者としては 100 区画売ったら終わりではなく、町を育てるのだという言葉の端々に御代田町に対する郷土愛とまちづくりへの熱意を感じました。数年先に町の中になじんだ頃、もう一度訪れてみたいと思いました。葉山町の随所で行われている開発も事業者にこのような意気込みがあれば、良いまちづくりにつながるのではないかと思います。町として何をどのようなすれば良いのか、大きな課題として持ち帰ります。

◎石川県津幡町

ここは令和 5 年の豪雨、そして令和 6 年の能登半島地震の被害があり、その実体験に基づく災害対応を聞かせていただくことに大きな意義があると感じています。

- ・避難所にデジタルキーボックスを導入し、誰でもが迅速に開設できるよう改善した。
- ・トイレカーを配備 1,200 万円（補助率 1/2）
- ・防災啓発動画の制作（自助・共助の大切さ、自分の身は自分で守る）
- ・情報発信手段を年齢に応じた対応とした。（デジタルに不慣れな人には出向いて説明）
- ・備蓄物資のため 4 億円（1 万円／人）予算計上（今年度）
- ・地域防災計画が職員に徹底していなかったため、受援計画がしっかり機能しなかった。
- ・町の災害対策本部に議長がオブザーバーとして参加することにした。（監査の提言で改善）
- ・国からの物資がプッシュ型だったので、いつ届くか分からず受け入れ体制に困惑した。
- ・防災行政無線は除くが、各種媒体に一斉配信システムを導入（令和 6 年度）

・ 実際の避難所での災害弱者の状況

障害者 数人が福祉避難所に。

高齢者 避難が終了しても、一人暮らしが不安なので、避難所に居たいという要望があった。

ペット 動物アレルギーの方との兼ね合いが課題

妊婦等 今回は一人も居なかった。

以上の反省点の他、公共下水道の修繕は未だ続いており、今後 10 年はかかるとのことで、液状化現象は怖いとのことでした。公共下水道の設置年数は葉山町と同等で、有事に合わせて、その対応を考えていく必要があると肝に銘じました。

◎石川県金沢市「金沢未来のまち創造館」

市立野町小学校が統合により廃校となったため、その後の利用を関係者と話し合った結果、建物は残して欲しいとの要望が強かったとのことでした。よって、リノベーションをして「金沢未来のまち（野町）創造館」となりました。1 階は「交流」のまち（野町）として公民館や野町社会福祉協議会があります。

また、カフェもあり、そこでは野町小学校の卒業生が昔を懐かしみ、同窓生たちが定期的にお茶を飲みに来るようです。2 階は起業のまち、起業家の始めの一步となるよう支援し、安い家賃で教室だったところを提供しています。3 階は好奇心のまち、子どもたちが登録するだけで、いつでも何でも自由に参加することができ、自分の可能性を見だし、好奇心や興味を突き進めることができるよう配慮されています。内容は多彩で、多様な機材やツール、素材が揃っており、アートやテクノロジーの活用で自分の人生を楽しみながら未来を創っていくためのサポートをしています。参加費は無料で運営は市が事業者に委託しています。視察の日は専門家との音楽のセッションを子どもが楽しんでいました。4 階は食文化のまち、金沢市の文化と経済の礎の「食」をさらに切り拓くための施設で見事な厨房が設置されていました。ここは、プロアマを問わず、メニューの開発等に利用することができます。葉山町は小中一貫校を目指しており、廃校となる公立学校の跡地利用を考える時が来ますので、その時の参考にしたいと考え、先進地としての視察をしました。

◎石川県川北町

面積は葉山町より少なく 14.64 ㎢ですが、人口が葉山町の 1 / 5 で、手取川の河川敷に広大な県の広場があり、スポーツ等ができるのですが、更に町営の多目的運動公園「サンフィールド川北」があります。葉山町とは比べものにな

らないほどの恵まれたスポーツ環境です。

総工費 11 億 9 千万円で 3 割が防衛省の補助金だとのこと。その後も航空自衛隊小松基地の延長線上にあるということで、防衛省再編交付金もあり大型複合遊具（インクルーシブ遊具）等の整備に活用したとのこと。維持費は町単独で 1,279 万円／年とのこと。全面天然芝にこだわったのですが、維持管理費に 800 万円／年かかり、サッカー場の部分は傷みが目立っていました。この施設の利用料は町内の人は無料とのこと。ジョギング・ウォーキングコースや 100 メートル走のコース、そしてナイター照明など設置されており、誰でもが親しんでもらえる施設となっています。

2 泊 3 日で 4 カ所の視察をさせていただきました。各所で親切な対応をしていただき、感謝申し上げます。学んだことを葉山町に活かすため、提言を続けて参ります。

＜笠原委員＞

◎長野県御代田町

御代田町は浅間山の裾野にある町で、軽井沢町と小諸市、佐久市の 2 市 1 町の間位置し「100 年先を見据えた地方の価値を再提示するプロジェクト事業がガーデンシティ MIYOTA 軽井沢 100」の造成が進行中です。以前会派で視察したことのある「岩手県オガールの街づくり」を参考にした話に始まり、計画全般の説明、質疑を行い、その後造成工事中の現場視察をしました。

町へは軽井沢駅からしなの鉄道に乗り換え、御代田駅下車。駅から上り坂を 10 分ほどで町役場、その途中に広がる造成工事を見ながら会議場所に到着。

本事業は御代田町と県内中堅企業、株式会社大建のプロポーザルにより推進中の事業です。町役場向かいの公民館施設「エコールみよた」の会議室にて内堀議長挨拶の後、事業の全般を取り仕切る株式会社大建の増田取締役より説明を受けました。

御代田町は、6 年間で 1,300 人から 1,700 人ほど人口が増加しています。コロナ禍以降に 30 から 40 歳代の移住者による増加傾向とのこと。旧庁舎跡地と町有地、地続きの民地 14,892.9 坪をプロポーザル契約で株式会社大建が開発及び事業運営を行い、100 世帯の住宅用地・新設公園・新設道路及び歩道に電柱地中化を行うとのことでした。工期計画では令和 7 年 6 月から令和 9 年 3 月の計画としていますが、若干工期延長の変更があるようで事前の宅地販売に関する予定価格等についての回答は控えるとのことでした。

御代田町の紹介動画もあり県内での話題も多いようで、今回のまちづくりの特徴は高級な生活環境の提案としています。緑の多いゆとりある全体開発地は各個別住宅にも造成地域全体の緑化に協力していただくことになること。昼夜間に安心の広い歩道には、足元を照らす夜間間接照明配備は夜空の星を見る邪魔をしない。施設内中間点の八の字交差点には噴水があり両側に緑地公園が計画されています。完成後の新しい町は、県内上田市に続き2番目となる無電柱化となります。高級住宅街のすべてが公園化し、いくつものポケットパークがあり夜には星空が広がり、晴れた昼間には八ヶ岳の眺望など自然豊かな景観を楽しむことができる町。さらに澄んだ高原の空気など健康な生活環境の提案が最大限のセールスポイントとのことでした。

大建の増田社長に造成中の現地を案内いただきながらの会話の中に、新しい街づくりに寄せる郷土愛や情熱には、我々視察側も感銘を受けました。私も参考として、葉山町でも過去に県知事の情熱により湘南国際村が誕生したこと、本事業が御代田町全体の発展につながることへの期待をお伝えしました。また、今回役場庁舎見学はしませんでしたでしたが、ウイスキー蒸留機がモニュメントとして庁舎前にあり、かつての三楽オーシャン工場が現庁舎地であるとの話をお聞きしました。

◎石川県津幡町

石川県のほぼ中央に位置する町で令和5年7月の豪雨被害と令和6年1月1日の能登半島地震での対応について伺いました。

豪雨では線状降水帯が発生し県全域が記録的大雨となった。県管理の6河川40か所の流木除去、護岸崩壊、林道崩壊などが起こり、町内3地区対象に避難指示発令2,723世帯7,109人。避難所4か所に25世帯52人の避難あり。

人的避難なし、住家被害373棟（内全壊7棟・大の中半壊119棟・準半壊42棟・一部損壊205棟）

能登半島地震では、令和6年1月1日16時10分ごろ震度5弱の地震発生。1日16時41分災害対策本部設置。17時00分避難所開設最大時16か所・避難者最大時1,805人の各避難所に乾パン、水、毛布等の配布。

2日、4日の2区域29世帯65人に避難指示発令し、その後4月18日避難所閉鎖された。5月21日県の長期避難世帯認定で一地区8世帯22人が認定され令和7年12月23日の避難指示解除まで続いた。被災状況では人的被害重症2人、住家被害3,603件（罹災証明書発行件数）全壊9件・大規模半壊4件・中規模半壊8件・半壊71件・準半壊215件・一部損壊3,296件で津幡町の被害地の多くは、谷埋め型盛り土による住宅区域で起きたとの説明あり。道路破損、

マンホールの浮上、道路亀裂、道路崩壊に伴う住宅敷地亀裂や家屋崩壊が起こった。

議会とのかかわりについては、議長指示により警報発令時に議員の安否確認がタブレット LINEWORKS にて送信され、議員はその後回答送信を行うこと。また、このシステムを使い被災情報を送信することができる。

さらに議長指示による協議会開催（参加可能議員）情報共有を行い議長判断による議会災害対策支援本部を設置。町へ議会の対応について通知後に行政と議会の被災情報共有化を図る。面積の広い町での情報提供に議会も参画している実態と町災害対策本部会議に議長はオブザーバー出席の違いがある。

今回の津幡町視察の災害対応では、特に能登半島地震での津波被害はなく、町の海岸方面となる西側には河北潟があり、潟に流れ込む浮気川の土手が小高い丘陵地帯として防波堤的な役割をしている説明がありました。町の木は松・花はつつじ、木曾義仲が牛の角に松明を灯し戦った源平合戦の倶利伽羅峠は町の歴史を語る公園として桜の名所となっています。

災害時における職員の仕事内容はどの町も同様に大変なもので、議会や議員も災害対応に参加。4期目の八十嶋議長は今回の災害時に、議会代表として町対策本部への参加や情報提供活動をされていたとのことでした。

◎石川県金沢市「金沢未来のまち創造館」

名称の「のまち」は旧野町小学校の名前を入れています。「地域の居場所や産業拠点に生まれ変わる廃校舎のいま」について金沢市経済局産業政策課、金沢未来のまち創造館池田館長補佐より映像を使い施設概要の説明や紹介後に元教室を再利用、改修後の館内各施設案内を受けました。

令和3年8月の開設にあたり、重要伝統的建造物群保存地区としての調和が大切として、4階建て校舎再利用にあたり外観の落ち着きや色調など配慮されたエントランスエレベータホールが増築されました。

多くの教室を再利用し「新たな価値を創造する人材の育成施設」特に、金沢のための最先端技術、食、工芸の企業活動の開発支援に2・3階部分をブース化し無料施設・有料施設として提供する部屋が配置されている。そのほか広い教室の利用としては、多目的施設として活用され、保育施設としての部屋・各種会合に使える部屋・健康増進機材もある部屋。軽食喫茶室もあり余暇活動などなどの利用拠点としての有料、無料提供ブースもある。4階には企業研究や食文化研究など事業化への施設が集中し、広い調理施設は有料施設として提供されている。さらに2階、3階の多目的施設には小中学生や不登校児童を受け入れ、モノ作り体験活動や音楽の学習活動などなどが行われていました。

こうした児童や学生への技術指導は、各種ボランティアの方々や専門家の方々による支援体制があります。時間の関係で見学できない部屋に、1 階の交流カフェ、公民館、展示スペース、社会福祉施設があるとのこと。

広い旧校舎の教室の活用が将来の金沢市のあらゆる分野での人材育成に役立つと感じました。

運営の位置づけは、金沢市が管理運営し公募型プロポーザルで選定された一般社団法人 CLL による官民連携型価値創造施設です。

有料での施設利用 2 階のブースには 5 G の通信環境が整備されておりオフィス及びシェアオフィス研究室もあり 24 時間 365 日使用可能とのこと。

一般への開放は 9 時から 21 時、12 月 29 日から 1 月 3 日までは休館。

託児所は月から金曜日、時間制限と年末、祝日制限があり、有料施設無料施設などそれぞれである。説明後に施設内で熱心にモノ作りに取り組む子供の姿も見え、すでに商品化された作品もあるとのこと。3 D プリンターや高度な機材も多く、大変興味深い先進的な設備環境でした。さらに中学生くらいの女性が CG 音楽のレッスンを受けている姿を見ることができました。さすがに金沢は「文化・芸術・食のまち」廃校となった施設も活用していく土壌があり「人づくりモノ作り」が町づくりの基本としている。葉山では地元の商、工業者の高齢化や廃業も進みまちづくりを支えるこうした取り組みに対し、羨望やら期待感、一抹の不安感をいただいた視察でした。

◎石川県川北町

石川県で 2 番目に小さい面積と人口の町。南部加賀平野に広がり、日本 3 大急流の手取川の扇状地が広がる平坦な町。稲作が中心の農業と手取川の水源利用の機械工業、食品加工業など企業の集積地として工業団地地区がある。住民構成の主は農業者とこうした企業従事者の家族により構成されている農業と企業城下町といえるようだ。

町有マイクロバスの出迎いで、役場に向かう道沿いに見た手取川の川幅、河川敷の広さ。河川敷には川に並行してテニスコートなどの各種競技場が数多く見受けられ、長い河川土手には桜並木が続いていました。

河川敷では毎年夏に行われる北國大花火川北大会は石川県内でも有数の花火大会として有名で、夏の夜空に 2 万発の花火が打ち上げられるとのこと。県内でも有名な温泉地でもあり花火大会の時には河川敷に観覧席を設けるなど、町内はもちろん全国各地からの観光客で賑うそうです。

田西副町長、西田議長より歓迎のあいさつがありました。教育長も西田さんで同じようなお名前の方が前席に並ばれ挨拶と説明が行われました。

面積 14.64 km²、人口 6,068 人、2,104 世帯、人口密度 414.5 人／km²（令和 8 年 4 月 1 日現在）

会計規模は一般会計 49 億 3,700 万円 町税 14 億 8,200 万円。

議会の視察で行政面積が葉山町より小さく、しかも人口もかなり少ない。

米・大麦・イチジク・冬柿の農業立町と公共料金の町民負担の少ない町を目指しているとのことでした。

図書館を 2 階に併設した温泉施設「ふれあい健康センター」を昼食場所として利用させていただき入浴料 300 円の塩分濃度の高い温泉も体験させていただきました。

令和 5 年より小中学校給食無償化も先駆けていること、役場庁舎・消防庁舎・文化センター・老人福祉センター・総合体育館・第二体育館・武道館・勤労者体育施設・ふれあい健康センター（温泉施設・図書館併設）などの数多くの公共施設があること。小中学校以外の簡易グラウンド（野球場 1 面・ソフトボール場 2 面）などの教育施設もある。

さらに、河川敷に広がるテニスコート 2 面や水辺の楽校施設として位置づけられている、グラウンドゴルフ場、イベント広場、ヘリポート、キャンプサイト、バーベキューサイトなどなどもある。

教育施設は町内の 3 地域（中島・川北・立花）の地区にそれぞれに一施設の保育所と児童館があり、小学校も各地区に 1 校ある。中学校は 3 地域合わせ 1 校の 3 小 1 中である。

今回の視察目的の多目的運動公園、サンフィールド川北は令和 6 年 3 月完成し 4 月 7 日竣工式。その後大型遊具、ジャンピング遊具（葉山規模より大きいインクルーシブ遊具）施設が整い、令和 8 年 3 月に完成した。

本施設建設費と維持管理費用も高額ではないかと推察される中、建設費 11 億 9 千万円で約 3 割が補助金とのこと。年間の維持管理に 1,200 万円かかるとの説明を受けました。

役場・総合体育館・温泉施設・サンアリーナの 4 施設に隣接地に多目的運動公園施設として完成しました。

敷地面積 2.8ha の中には多目的運動公園と芝生広場、約 100 台の駐車場と駐輪場や管理棟、インクルーシブ遊具設備のある 0.86ha、芝広場 0.57ha で災害時の緊急避難所として、仮設住宅建設用地、広域避難所として利用すると建設されました。1 周 560m のジョギングコース、100m 走路全天候型 6 レーンがありサッカーグラウンドとしても使用できるとのことでした。そうした利用状況や財政的な課題についての視察を行いました。

本施設の維持管理費は町の単独費用にて支出。防衛施設周辺市域への補助金、

災害時の仮設住宅建設用地としての補助対象事業となること。

企業団地からの収入など財政的に詳しい部分の回答はなかったと思いますが、現場施設見学の際に受けた説明では、町全域が小松空港飛行場の飛行航路に位置しており騒音と安全対策上の費用があるとのことでした。

＜近藤委員＞

◎長野県御代田町

今回の視察では、ガーデンシティ MIYOTA 軽井沢 100 が単なる宅地開発ではなく、行政・民間・住民がそれぞれの役割を担う公民連携（PPP）による長期的なまちづくりとして進められていることを学んだ。行政は都市計画や地区計画、無電柱化など公共性を担い、民間事業者は企画・投資・事業推進を担当するなど、役割分担が明確であり、それぞれの強みを生かした事業となっていた。

人口増加については、軽井沢町と佐久市の中間に位置する交通利便性や比較的安価な土地価格、コロナ禍を契機とした移住需要の高まりなど、地域の立地条件が大きく影響していることが分かった。また、以前から企業への転勤者を受け入れてきた歴史があり、地域に転入者を受け入れる土壌が形成されていたことも特徴であった。一方で、移住者と既存住民の交流については特別な行政施策は行われておらず、自治会加入率の低下が課題として挙げられていた。人口が増えれば地域コミュニティも自然に形成されるわけではなく、地域とのつながりを維持する仕組みの重要性を改めて感じた。

特に印象に残ったのは、「100 年先を見据えたまちづくり」という考え方である。住宅を販売して終わりではなく、地区計画や緑地協定、HOA（住民管理組織）、独自の景観ガイドラインを組み合わせ、住民自らが街並みや緑地を維持管理しながら、時間の経過とともに地域の価値を高めていく仕組みが構築されていた。また、無電柱化や緑豊かな街並み、高性能住宅の導入など、将来の資産価値や居住環境を見据えた取り組みも参考になった。

葉山町でも、公共施設再整備やまちづくり条例の見直しが進められているが、施設整備そのものを目的とするのではなく、将来どのようなまちを目指すのかという明確なビジョンを住民と共有し、行政と民間、住民がそれぞれの役割を果たしながら進めることが重要である。また、景観や緑地、地域コミュニティを将来にわたり維持するための仕組みづくりも欠かせない。今回の視察で得ら

れた知見を、葉山町らしい自然環境や景観を生かした持続可能なまちづくりに活かしていきたい。

◎石川県津幡町

今回の津幡町視察では、令和6年能登半島地震という実際の災害対応を経験した自治体から、議会と行政それぞれの役割や、地域と連携した防災体制について多くの示唆を得ることができました。

特に印象に残ったのは、災害時には行政だけで全てに対応することは困難であり、自治会や自主防災組織、消防団、ボランティアなど地域の力が初動対応を大きく左右するという点です。日頃から地域で顔の見える関係を築き、防災訓練や情報共有を積み重ねてきた地域ほど、安否確認や避難所運営が円滑に進んだという説明は、地域コミュニティの重要性を改めて認識する機会となりました。

また、議会の役割についても、行政と競合するのではなく、地域の被害状況や住民の声を把握し、それを適切なルートで災害対策本部へ伝えることが重要であるとの考え方は、大変参考になりました。平時から議会と執行部が役割分担や連絡体制を整理し、災害時に混乱を生じさせない準備を行うことの必要性を強く感じました。

さらに、避難所運営では、高齢者や障害者、外国人、乳幼児連れ、ペット同行避難者など、多様な立場の方への配慮が不可欠であること、また情報発信では、防災行政無線だけでは十分ではなく、LINEやSNSなど複数の手段を組み合わせるとともに、デジタル機器を利用できない方への情報伝達方法も確保しておくことが重要であると学びました。

葉山町は海に面し、津波や土砂災害など複合的な災害リスクを抱えています。また、民間施設や地域施設を避難所として指定していることから、施設の安全性の確認や運営体制の充実、要配慮者支援、地域との役割分担などについて、改めて検証を進める必要があります。加えて、議会としても災害時の行動指針や議会BCPの整備を進め、行政との連携体制をより実効性のあるものにしていくことが求められます。

今回の視察で得た教訓を、葉山町の防災対策や議会活動に生かし、行政と地域、議会が一体となって町民の生命と暮らしを守る災害に強いまちづくりにつなげていきたいと考えます。

◎石川県金沢市「金沢未来のまち創造館」

金沢未来のまち創造館は、廃校となった旧小学校をリノベーションし、子どもの創造活動や起業支援、市民活動を一体的に展開する新たな公共施設として整備された。単に遊休施設を再利用するのではなく、「未来の人材を育てる」「新たな産業を創出する」「地域に新たな交流を生み出す」という明確な目的を掲げ、施設運営が行われている点が印象的であった。

施設整備に当たっては、解体・新築ではなく既存校舎を活用することで、建設コストの抑制や環境負荷の軽減に加え、地域の思い出や歴史を継承することも重視されていた。また、行政が施設を整備し、運営は民間事業者の専門性を生かす体制とすることで、柔軟な企画運営や利用者ニーズへの迅速な対応を実現していることは、行政直営にはない大きな利点であると感じた。

子ども向け創造活動拠点「VIVISTOP」では、学校教育とは異なり、子どもたちが自ら考え、試行錯誤しながらものづくりや探究活動に取り組む環境が整えられていた。年齢や学校の枠を超えた交流が生まれ、自主性や創造性を育む場として機能していることは、これからの人材育成において大きな意義があると感じた。

また、起業支援では、スタートアップや研究開発型企業の育成に取り組み、新たな事業や雇用の創出につながっていることも確認できた。一方で、施設が一部の専門人材だけの拠点にならないよう、市民が気軽に参加できるイベントや講座、交流機会を設け、幅広い世代が利用できる施設づくりを進めている点も参考となった。

葉山町でも、公共施設の老朽化や学校施設の将来的な活用が課題となっている。廃校や公共施設を単なる「余った建物」と捉えるのではなく、地域課題の解決や人材育成、地域経済の活性化につながる拠点として再生するという金沢市の考え方は、大いに参考になる。また、施設整備だけでなく、運営主体の選定や市民参加の仕組みづくり、費用対効果の検証を重視している点も学ぶべきであり、葉山町においても将来を見据えた公共施設の再編・活用を進める上で、多くの示唆を得ることができた。

◎石川県川北町

石川県川北町の「サンフィールド川北」を視察し、公共施設は単なるスポーツ施設ではなく、住民の健康づくりや交流促進、地域活性化を支える重要な拠点であることを改めて認識した。施設では、子どもから高齢者まで幅広い世代が利用しやすい環境づくりが進められ、各種スポーツ活動や健康増進事業、地域イベントなどを通じて、多世代交流の場として活用されていたことが印象的であった。

また、施設を整備するだけでなく、指定管理者による効率的な運営や自主事業の展開、利用者ニーズを踏まえたサービスの充実など、利用率の向上と持続可能な施設運営に向けた工夫が随所に見られた。公共施設は建設後の維持管理や運営が大きな課題となるが、行政と運営主体が連携しながら施設価値を高めている姿勢は大いに参考になった。

さらに、健康づくりや介護予防、学校や地域団体との連携など、スポーツを核として幅広い行政施策と結び付けている点も特徴的であり、施設が地域コミュニティの維持・活性化に大きく寄与していることを実感した。人口規模が比較的小さな自治体でありながら、多様な活用によって住民サービスの向上を図っていることは、葉山町にとっても学ぶべき点が多い。

葉山町においても、公共施設の再整備や運営の在り方が大きな課題となっている。今回の視察を通じて、施設整備の目的を明確にし、建設後の維持管理や利用促進、地域課題の解決までを見据えた計画が不可欠であることを再認識した。今後は、住民ニーズを的確に把握しながら、健康づくりや地域交流の拠点として公共施設を有効に活用できるよう、今回得た知見を葉山町の施策に生かしていきたい。

以上、ご報告いたします。

令和 8 年 10 月 9 日

総務建設常任委員会